

急激に拡大した アラブ帝国



3大陸にまたがる大帝国を
築き上げたアラブ人

ムハンマドの死後、ムスリム（イスラーム教徒）の間で選ばれたカリフ（最高権威者）が統治する正統カリフ時代となる。この時代、アラブ人はアラビア半島から進出し各地を征服した。ササン朝ペルシアを滅亡させ、ビザンツ帝国領になっていたシリア、エジプトをも版図に加え、広範囲を支配するアラブ帝国が誕生した。アラブ帝国は、アラブ人第一主義をとり、異教徒や異民族ムスリムに、ジズヤ（人頭税）とハラージュ（地租）を課した。

661年、第4代カリフのアリーが暗殺され、シリア総督のムアウィヤがカリフとなり、ウマイヤ朝を開いた。ウマイヤ朝を支持するスンニ派は、正統カリフとウマイヤ朝以降のカリフを正統としたが、アリーとその子孫を正統なカリフとするシーア派はこれを認めず、ウマイヤ朝に對抗した。

ウマイヤ朝の時代にもアラブ軍は各地を征服し、8世紀初めに最盛期を迎える。東はインダス川流域まで、西は北アフリカをへてイベリア半島に進出。西ゴート王国を滅ぼし、フランク王国にも侵入したが、トゥール・ポワティエ間の戦いでフランク王国の軍に敗れ、西ヨーロッパ全域の征服は成らなかった。

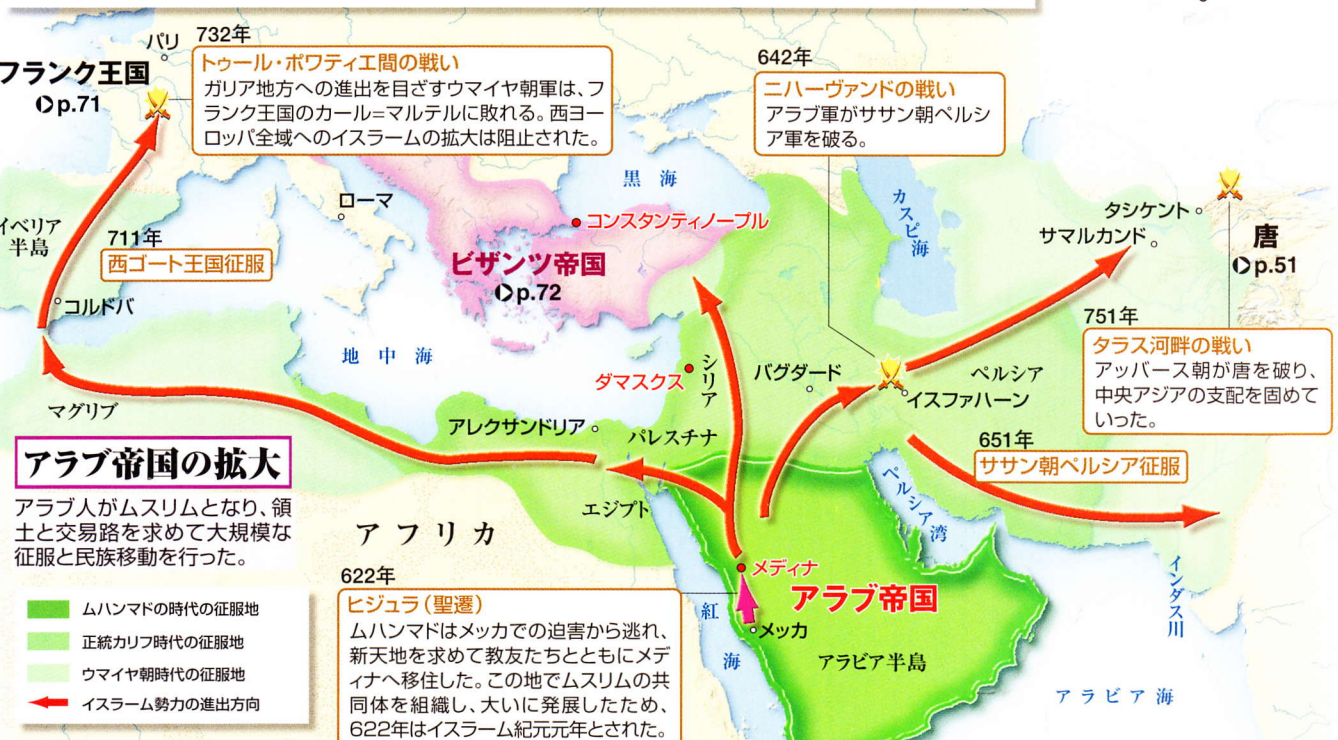
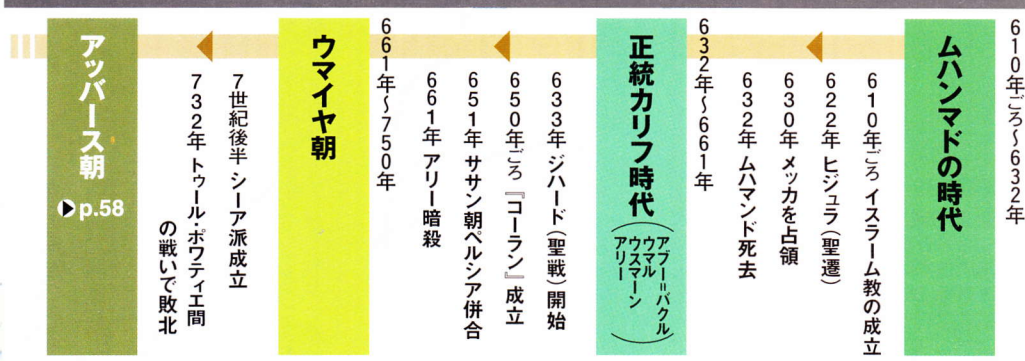
アラブ帝国から
イスラーム帝国へ

ウマイヤ朝は、版図の大きさでは後のアッバース朝（p.58参照）を凌ぎ、国内ではアラブ化、中央集権化が進められた。しかし、カリフ位をウマイヤ家が独占するなど、イスラームの理念にもとる政権運営が行われたため、シーア派などが不満を強めた。750年、ムハンマドの叔父アッバースの子孫が、アラブ人第一主義に不満をもつ勢力などを糾合してウマイヤ朝を倒し、アッバース朝を建てた。ウマイヤ朝のカリフ一族はイベリア半島に逃れ、後ウマイヤ朝を建てることになる。

アッバース朝は、すべてのムスリムは平等というイスラーム本来の理念から、アラブ人の特権を廃止した。こうして、イスラーム法に則る世界帝国が誕生するのである。

アラブ人ムスリムによる
征服活動で大帝国が誕生。
ウマイヤ朝から
アッバース朝へ。

イスラーム教の成立からアラブ帝国へ



Key Word

ジズヤ

イスラーム法下における人頭税で、非ムスリムに課せられた。ムハンマドが、ユダヤ教徒、キリスト教徒の成人男性に課税したことが始まり。もとは租税一般を意味していたが、ウマイヤ朝末期に地租であるハラージュと区別されて人頭税を指すようになった。少額ではあったが、非ムスリムにとってはイスラームの支配に屈するという意味をもった。